

# 平成 30 年度事業報告

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

平成 30 年度は、引き続き「公益財団法人福島県国際交流協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」の各基本目標に基づく事業計画に沿って、各事業に取り組んだ。

## 【基本方針及び目標】

### 基本方針 1 多文化共生による地域づくりを推進します。

互いの文化の違い等を理解し対等な関係で尊重し合い、共に生きる地域社会の実現を目指します。  
外国出身県民を含めた県民誰もが住みやすいと感じ、その能力を生かして地域社会の一員として活躍できる環境を整備します。

## 【数値目標】外国出身のサポーター※の延べ活動人数

(単位：人)

項 目	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績 (達成率)
延べ活動人数	90	19 (21%)

数値目標は、当協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）に基づく。

※「サポーター」とは、人材バンク制度及びボランティア登録制度の登録者

## 【事業実績】

### 1 異文化理解および国際交流の機会を提供する事業

#### (1) 国際理解出張講座（多文化共生編）

県内の公民館主催事業や各種団体等の会合に当協会職員等が講師として出向き、県民（児童生徒等を除く）を対象として、文化の多様性、外国人の人権、異文化理解や貧困問題などをテーマとした講座を実施した。（児童生徒等を対象とする講座については、P11 の「国際理解出張講座（グローバル人材編）」に記載。）

○ 参加者：146 人（前年度実績 142 人）

○ 講座名と実施回数

	講 座 名	実施回数
A	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	
B	地球の食卓	2
C	世界がもし 100 人の村だったら	
D	食卓からのぞいてみようイスラム文化	
E	これってアリ？	1
F	貿易ゲーム	
G	新しい惑星の旅	
H	シータちゃんの日	

I	ホームステイおもしろ体験	
J	魚獲りゲーム	
K	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	1

合計 4 回（前年度実績 5 回）

## (2) グローバルコミュニティカフェ

外国語による会話を通じて、外国の言語や社会、文化等に関する理解を深めるため、講師として外国出身の多文化共生・国際交流人材バンク登録者等を活用し、気軽に外国語に触れる機会を当協会にて定期的に提供した。

なお、9月には南相馬市国際交流協会と協働し、出張型として南相馬市で実施した。

### ア グローバルコミュニケーションコース

外国出身の講師を迎え、講師の国で話されている言葉に触れながら、その国の文化を理解するコースを開催した。

- 実施月日：9月15日（土）10：00－12：00
- 参加者：16人（うち外国出身者4人）（前年度実績 27人（3人））
- 講師の出身国：インドネシア

### イ 英語コミュニケーションコース

あらかじめ設定した様々なテーマについて、英語でフリーディスカッションを行いながらゲストスピーカーの国の文化を理解するコースを開催した。

- 実施回数：3回
- 参加者：のべ31人（うち外国出身者4人）（前年度実績 91人（4人））

### ウ グローバルコミュニティカフェ in Kitchen

場所を調理室に変えて、デザートを作りながらゲストスピーカーの出身国の食と文化への理解を深めた。

- 実施回数：2回
- 参加者：のべ32人（うち外国出身者0人）

## (3) 国際交流広報紙「ジャイロ」の発行

県民の国際交流への興味関心をより一層高めるため、県内の国際交流等に関する様々な取組や情報をタイムリーなテーマで特集した国際交流広報紙「ジャイロ」を発行し、公共施設等を通じて県民に広く配付した。

- 発行月：8月
- 発行部数：5,000部
- 仕様：A4判8ページ、両面フルカラー
- テーマ国：大洋州
- 内容：Interview with Foreigners、ふくしまで「暮らす。働く」、世界を歩こう！、海外グルメ事情、ぶらっと Fukushima など
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、エスニック料理店他

## 2 多言語による対応を推進する事業

### (1) 多言語による相談対応事業 《県委託事業》

外国出身県民からの行政サービス等生活に関連する様々な問合せに多言語で対応した。

#### ア 外国出身者のための相談窓口

多言語相談員 1 人及び通訳員 3 人を配置し、中国語と英語は随時、韓国語、タガログ語、ポルトガル語は毎週木曜日 10:00～14:00（第 4・第 5 木曜日は予約制）に、行政サービスや在留資格など外国出身県民に関わる各種問合せに対応した。

- 相談件数：251 件（前年度同期 285 件）
- トリオフォン(三者通話電話)利用件数:29 件（前年度同期 28 件）
- 相談言語別内訳

言語名	中国語	日本語	英語	タガログ語	ポルトガル語	韓国語	合計(件)
件数	128	87	30	5	0	1	251

#### イ 外国人相談窓口ニューズレターの発行

外国出身県民の相談事例等を掲載したニューズレターを作成し、県内の行政機関等に配付することにより、当協会の相談窓口の広報を図った。

- 発行月：8 月
- 発行部数：100 部
- 仕様：A4 判 2 ページ、両面白黒
- 内容：平成 30 年度相談窓口状況報告、相談事例の紹介、トリオフォンを使った無料通訳サービス及び外国出身者のための相談窓口の紹介など
- 配付先：県内の市町村住民関係窓口、保健福祉事務所及び児童相談所など

#### ウ 外国人出身者のための相談窓口広報クリアファイルの作成

相談窓口の案内を印刷したクリアファイルを作成した。

- 発行月：7 月
- 発行部数：5,000 部
- 配付先：日本語教室や外国出身者コミュニティ、当協会主催事業への参加者等

### (2) 多言語による情報提供事業 《県委託事業》

外国出身県民の本県での暮らしをサポートするため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの 3 つの媒体を活用し、中国語、英語、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：47 件(前年度同期 87 件)
- 多言語発信回数：159 回（前年度同期 371 回）
- 言語別内訳

言語名	英語	中国語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	合計（件）
回数	43	32	29	27	28	159

### 3 日本語によるコミュニケーションを支援する事業

#### (1) ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業 《文化庁委託事業》

外国出身県民が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするため、次の〔取組1〕から〔取組3〕の事業を行った。また、各取組の効果的な実施を検討・検証するための運営委員会を設置し、協議を行った。

#### ア 運営委員会の設置

##### ○ 第1回運営委員会

日 時：5月16日(水)13:30～15:30

出席者：米勢治子氏（東海日本語ネットワーク副代表）他、計6人

内 容：取組1、2、3、4についての協議

#### イ 〔取組1〕既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアスキルアップ研修会

県内各地の4つの日本語教室と協働して、それぞれの教室に通っている学習者を対象に、文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育」に沿った日本語講座を実施した。またその講座に併せて、日本語ボランティアのための研修会を開催した。

○ 実施回数：4か所（6月～1月）

○ 協働団体：会津若松市国際交流協会 他、計4団体

○ 参加者：日本語講座 のべ88人（うち外国出身者 37人）

研修会 のべ52人（うち外国出身者 3人）

○ 講師：加藤早苗氏（インターカルト日本語学校長）、品田潤子氏（公益社団法人国際日本語普及協会教師会員）、芳賀洋子氏（地球っこクラブ2000代表）

#### ウ 〔取組2〕外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座

県内各地の外国出身者コミュニティと協働して、文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育」に沿った日本語講座を開催した。

○ 実施回数：5回（5月～9月）

○ 協働団体：ベトナム出身者コミュニティ他、計5団体

○ 参加者：のべ63人（うち外国出身者 50人）

○ 講師：菊地紀子氏（二本松国際交流ボランティアざくざくネット）他、計8名

#### エ 〔取組3〕新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講座及び日本語ボランティア研修会

日本語教室が開催されていない西郷村において、西郷村教育委員会と協働して、文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育」に沿ったトライアル日本語講座と日本語ボランティア研修会を実施した。

- 実施回数：7回(6月～7月)
- 場 所：西郷村文化センター
- 講 師：永島恭子氏（（一社）ふくしま多文化フォーラム理事）、石橋英子氏（フロムココ白河代表）
- 参 加 者：日本語講座：のべ139人（うち外国出身者 55人）  
日本語ボランティア研修会：のべ85人（うち外国出身者 2人）

## (2) わかりやすい日本語に関する意識啓発及びスキルの普及

外国出身県民に対する日本語による情報提供や日本語によるコミュニケーションを円滑に推進するため、様々な団体が行う事業を活用して当協会職員による研修会を実施した。

- 実施回数：3回
- 講 師：幕田順子（当協会）
- 参 加 者：のべ180人（うち外国出身者 0人）
- 主な内容：県警本部や県内の住民課を対象にした職員研修において、わかりやすい日本語のワークショップの実施

## 4 多文化共生による地域づくりを担う人材を育成・活用する事業

### (1) 多文化共生・国際交流人材バンク制度

多文化共生による地域づくり及び国際交流活動を推進するため、「多文化共生・国際交流人材バンク制度」に登録してもらうとともに、多様な主体からの紹介の依頼に応じ、登録者に活動の機会を提供した。

#### ア 登録者

- 人数：149人（うち外国出身者数 56人）（前年度同期 109人（45人））
- 出身国別内訳

出身国	日本	中国	フィリピン	タイ	韓国朝鮮	台湾	その他*	計 (人)
人数	93	25	6	5	3	3	14	149

※ ブラジル（2人）、オーストラリア（2人）、ルワンダ、ベトナム、スリランカ、エジプト、ネパール、パキスタン、パラグアイ（アルゼンチン）、ニュージーランド、バルバドス、モンゴル 各1人

#### イ コーディネート総数

23件、活動者数40人（うち外国出身者19人）（前年度同期26件、33人（22人））

(ア) 公的団体等からの依頼

- 件数：7件（前年度同期 10件）
- 活動人数：16人（うち外国出身者4人）（前年度同期 14人（11人））

(イ) 当協会主催事業への協力

- 件数：6件（前年度同期 8件）
- 活動人数：14人（うち外国出身者 14人）（前年度同期 10人（10人））

(ウ) 外国の子どもの学校生活への適応支援

外国の子どもが学校生活に適応できるようにするために、初期の日本語指導及びができるサポーター及び三者面談等での通訳ができるサポーターを紹介した。

a 日本語指導

- 件数：10件（前年度同期 8件）
- 活動人数：10人（うち外国出身者 1人）（前年度同期 9人（1人））

b 通訳

- 件数：0件（前年度同期 0件）
- 活動人数：0人（うち外国出身者 0人）（前年度同期 0人（0人））

**ウ 外国の子ども支援人材養成講座**

市町村教育委員会等と協働して、日本語がわからない外国の子どもが学校生活に適応できるよう日本語又は母語による支援を行う「外国の子ども支援人材」の養成講座を行った。

- 実施回数：4回
- 講師：日下部喜美子（当協会）
- 参加者：のべ45人（うち外国出身者 3人）（前年度同期 のべ44人（5人））
- 主な内容：「帰国・外国籍児童生等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業」の紹介及びサポーターの役割と指導上の留意点、教材等紹介等

**エ 外国人児童生徒等支援者研修会**

（公社）日本語教育学会と協働して研修会を開催した。

- 日時：8月8日（水）13:00～16:50
- 場所：当協会研修室
- 講師：市瀬智紀氏（宮城教育大学教員キャリア研究機構 機構長）
- 参加者：26人（うち外国出身者 5人）
- 内容：日本語指導が必要な児童生徒の教科学習に繋ぐ日本語指導について

**(2) 多文化共生・国際交流ボランティア登録制度（ホストファミリー・語学）**

県民のボランティア活動への参加により、外国出身県民が暮らしやすい環境づくりと国際交流活動を促進するため、登録者を広く募集し、多様な主体からの依頼に応じる体制を整備した。

**ア 登録者**

- 人数：112人（うち外国出身者数 33人）（前年度同期 91人（32人））
- 出身国別内訳：

出身国	日本	中国	韓国朝鮮	フィリピン	ブラジル	その他※	計 (人)
人数	74	16	3	2	2	10	107

※ オーストラリア、カンボジア、メキシコ、ベトナム、タイ、スリランカ、エジプト、ネパール、パキスタン、台湾 各1人

#### イ コーディネート総数

2件、活動者数8人（うち外国出身者1人）（前年度同期 実績なし）

(ア) 公的団体等からの依頼

○ 件数:2件

○ 活動人数:8人（うち外国出身者1人）（昨年度同期 実績なし）

### 5 外国出身の子どもの学校生活への早期適応を支援する事業

#### (1) 帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター紹介・派遣等支援事業

日本語がわからない外国の子どもの学校生活への適応に関わる心のケア、日本語指導などのサポーター活動について、サポーターの派遣又は紹介、児童生徒等の支援に関する相談対応、成果の検証等を行う「帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業」を実施した。

#### ア ふくしま外国の子どもサポートセンターの運営

平成26年度に設置した「ふくしま外国の子どもサポートセンター」を引き続き運営し、外国出身の子どもの支援するための相談対応、情報提供、日本語テキスト等の教材の貸出し等を行った。

○ 相談件数:18件（前年度同期21件）

#### イ ふくしま外国の子ども支援団体連絡会の運営

平成26年度に設置した同連絡会の事務局として、支援に関わる関係団体・関係者間で講演や支援ツールに関する情報提供を行うとともに、連絡会会員等を対象とした研修会を開催した。

○ 情報提供回数:6回（前年度同期3回）

○ 外国の子ども支援人材養成講座《再掲》（P6）

### 6 外国出身県民の災害対応を支援する事業

#### (1) 多文化共生・国際交流ボランティア登録制度（災害時外国出身県民等支援ボランティア）

被災地等において、外国出身県民等に対し、通訳・翻訳による情報収集、提供等を行う災害時外国出身県民等支援ボランティアの登録者を広く募集するとともに、研修会を実施した。

## ア 登録者

- 人数：79人（うち外国出身者 28人）（前年度同期 67人（26人））

## イ 災害時外国出身県民等支援ボランティア研修会

災害時外国出身県民等支援ボランティア登録者等を対象に、基礎編及び実践編の研修会を実施した。

### （ア）基礎編

- 日 時：7月14日（土）13:00～16:00
- 場 所：田村市総合体育館研修室
- 参加者：7人（うち外国出身者 7人）（前年度同期 27人（11人））
- 講 師：高橋伸行氏（船橋市国際交流課長、（一財）自治体国際化協会国際化推進アドバイザー）
- 内 容：災害時に外国人が直面する課題とボランティアの役割

### （イ）実践編

- 日 時：9月2日（日）8:00～15:00
- 場 所：田村市総合運動公園
- 参加者：8人（うち外国出身者 1人）（前年度同期 13人（3人））
- 講 師：谷明子氏（もとみや日本語教室）、奥秋和夫氏（こおりやま日本語教室）
- 内 容：福島県総合防災訓練に参加した外国出身者に対する「やさしい日本語」での案内、会場内の掲示物の翻訳（英語、中国語、「やさしい日本語」）及び日本語講座でのサポート

## （2）外国出身県民等に関する防災啓発事業

福島県総合防災訓練に外国出身県民とともに参加し、外国出身県民の防災に対する啓発や地域住民への災害時における外国出身者への配慮に関する啓発を図った。

また、ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業により、県内の日本語教室において「防災」をテーマとした日本語講座を実施した。

## ア 防災訓練への参加

- 日 時：9月2日（日）8:00～12:00
- 場 所：田村市総合運動公園（田村市）
- 参加者：19人（うち外国出身者 11人）（前年度同期 20人（11人））
- 内 容：福島県総合防災訓練（主催者：福島県等）への参加
  - [地域住民向け]  
やさしい日本語ワークショップの実施、広報展示コーナーへの出展
  - [外国出身県民向け]  
防災講座の実施、避難所入所受付の体験、起震車体験や煙体験、応急給食の試食体験 など
  - [その他]  
会場内案内板の多言語化

## イ 防災をテーマとした日本語講座の実施



ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業の「〔取組2〕外国出身者コミュニティでの日本語講座」において、防災等をテーマにした日本語講座を実施した。

○ 件数：1回

#### ウ 外国人のための防災講座

英語の通訳付きの防災講座を実施した。

○ 日 時：9月29日（土）10:00～12:30

○ 場 所：南相馬市消防防災センター 研修室

○ 参加者：8人（うち外国出身者7人）

○ 講 師：渡邊勲氏（福島県災害対策課防災専門監）

○ 内 容：地震及び津波の備え

## 7 外国出身者コミュニティの活動を支援する事業

### (1) 外国出身者コミュニティ活動支援事業

県内に潜在しているコミュニティの発掘を継続して行った。また、既存の外国出身者コミュニティに対しては、そのコミュニティが主催事業等を行う際の事業企画や関係機関との橋渡しなど事業実施に向けたサポートを行った。

また、ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業の「〔取組2〕外国出身者コミュニティでの日本語講座」を各コミュニティと協働して実施した。

### 【基本方針及び目標】

#### 基本方針2 多様な主体とともに国際交流・国際協力活動を推進します。

県、市町村、公益法人、NPO等様々な主体と密に情報共有を行い、ネットワークを構築します。さらに、各主体と連携・協働して、様々な国際交流・国際協力活動を効果的に行います。

#### 【数値目標】 多様な主体からの国際交流・国際協力活動に関わる相談件数

(単位：件)

項 目	平成30年度 目標	平成30年度 実績（達成率）
相談件数	250	68(27%)

※ 【数値目標】は、当協会第5期運営基本計画（平成28年度～平成32年度）に基づく。

### 【事業実績】

#### 1 多様な主体が行う国際交流・国際協力活動を支援する事業

### (1) 国際交流・国際協力活動への助成事業

福島県内に所在する非営利の民間団体が行う本県の国際交流・協力活動の進展に寄与する活動、国際交流活動を通じた本県の復興活動又は本県の復旧・復興の現状を外国語で国内外に発信する情報発信活動に関する助成事業を募集した。

- 募集期間：4月1日～8月31日
- 応募件数：3件（前年度同期 5件）

### (2) 国際交流・国際協力活動に関する相談対応事業

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する相談に対応し、人の紹介、ノウハウの提供等を行った。

- 相談件数：68件（前年度同期 141件）

### (3) 国際交流・国際協力活動に関する情報提供等支援事業

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する情報を収集し、SNSを通じて広く県民に対し発信した。県民への情報提供を行った。

	登録者数	発信回数
メールマガジン	265人 (前年度同期 259人)	9回 (前年度同期 2回)
フェイスブック	(「いいね!」) 758人 (前年度同期 517人)	86件 (前年度同期 398件)
ツイッター	(フォロワー数) 103人 (前年度同期 42人)	86件 (前年度同期 417件)

### (4) 国際交流・国際協力活動を行う団体等に対する外部研修会への推薦

外部団体が行う2つの研修会それぞれについて、関係団体のメンバーを推薦した。

## 2 多様な主体との多角的なネットワークを構築する事業

### (1) ネットワークの強化及び会議の開催

多様な主体への訪問や主催事業への参加を通じて、当協会とのネットワークの強化を図った。

#### ア 市町村国際交流協会等ネットワーク会議の開催

県内の市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当職員が一同に介し、インバウンドをテーマにグループに分かれ、意見・情報交換を行った。

- 日 時：7月24日（火）13:15～15:50
- 場 所：当協会研修室
- 参加者：市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当課職員 18団体（20人）

(前年度 20 団体 (22 人) )

○ 内 容 : 事業紹介

発表者 高橋健氏 (福島県北地方振興局復興支援・連携室主任主査)

甚野一彦氏 (福島市定住交流課係長)

情報・意見交換

イ フェスティバル等への出展

○ 出展数 : 3 件(前年度同期 2 件)

第3回フィリピンフェスタ イン フクシマ グローバルセレブレーション (ハワクマカイ福島) 他 計3件

ウ 多様な主体が行う事業への出席等

- 出席事業数 : 8 件 (福島市国際交流協会総会[福島市]、平成 30 年度第 1 次隊青年海外協力隊派遣前訓練修了式・壮行会 (J I C A 二本松訓練所) [二本松市] ほか) (前年度同期 7 件)

【基本方針及び目標】

**基本方針 3 グローバル社会で活躍できる人材を育成します。**

次世代を担う若い世代や人材育成を行う指導者等を対象に、幅広い知識や能力を習得する機会を提供し、グローバル社会で活躍する国際性豊かな人材を育成します。

【数値目標】 県内のグローバル化を先導する人材の累積育成数

(単位 : 人)

項 目	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績 (達成率)
累積育成数	90	124 (138%)

※ 【数値目標】は、当協会第 5 期運営基本計画 (平成 28 年度～平成 32 年度) に基づく。

【事業実績】

1 次世代を担う人材を育成する事業

(1) 国際理解出張講座 (グローバル人材編)

若い世代に対し、環境や貧困など世界規模の課題や、様々な価値観を持つ人々とのコミュニケーション、異文化適応等について学ぶ機会を提供するため、県内の学校等に出向いて参加型の講座を実施した。

○ 参加者 : 646 人 (前年度同期 1, 413 人)

○ 講座名と実施回数

	講座名	実施回数
A	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	
B	地球の食卓	2
C	世界がもし100人の村だったら	3
D	食卓からのぞいてみようイスラム文化	
E	これってアリ？	5
F	貿易ゲーム	
G	新しい惑星の旅	1
H	シータちゃんの日	1
I	ホームステイおもしろ体験	1
J	魚獲りゲーム	1
K	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	

合計 14 回（前年度同期 21 回）

## (2) ふくしまグローバルセミナー 2018

福島県国際理解教育ネットワーク（構成団体：福島県、福島県教育委員会、JICA 二本松、当協会）の主催により、県民を対象として、異文化理解や国際協力、多文化共生等について考えるため、外国出身者による母国紹介や国際協力現場レポートなど幅広い内容の講座を実施した。

- 日 時：9月22日（土）10：00～23日（日）11：50
- 場 所：JICA二本松（二本松市）
- 参加者：高校生以上一般 158人（前年度同期 143人）
- 全体講師：八木亜紀子氏（認定NPO法人開発教育協会）
- 内 容：全体会、昼食交流会、セッション（「難民を知るワークショップ～もしあなたが故郷を追われたら～」他19講座）、グロセミカフェ、自主セッション（「運命に導かれて～ルワンダの未来を担う子ども達のために～」他8講座）

## (3) 次世代の海外研修への助成事業

原則として 39 歳以下の大学生や社会人を対象として、国際社会に貢献し世界をリードする幅広い視野や国際感覚を持つグローバル人材を育成するため、非営利の国際交流団体等が主催する海外研修プログラムに参加する際の渡航経費の一部を助成する助成活動を募集した。

- 募集期間：4月1日～8月31日
- 応募件数：10件（前年度同期 3件）

## 2 県内のグローバル化を先導する人材を育成する事業

### (1) 平成 30 年度ふくしまグローバル人材育成指導者研修会

グローバル人材育成指導者のための指導者向けの研修会を基礎編と実践編の 2 回に分

けて実施した。

- 日 時：[基礎編]6月23日（土）10:00～16:00  
[実践編]7月21日（土）10:00～16:00
- 場 所：当協会 研修室
- 参加者：国際交流団体、教員等 [基礎編]30人 [実践編]29人（前年度 24人）
- 講 師：石森広美氏（宮城県仙台二華高等学校）

#### 【基本方針及び目標】

#### 基本方針4 海外での風評の払拭に向けて、福島現状を正確に伝えます。

特に海外で根強い風評を払拭するため、あらゆる機会をとらえて正確な情報を継続して発信するとともに、海外からの視察等を積極的に受け入れます。

#### 【数値目標】 風評払拭に向けた多言語による情報発信回数

(単位：回)

項 目	平成 30 年度 目 標	平成 30 年度 実績（達成率）
情報発信回数	600	159 (27%)

※ 【数値目標】は、当協会第5期運営基本計画（平成28年度～平成32年度）に基づく。

#### 【事業実績】

#### 1 海外での風評払拭に向けて本件の現状を多言語で発信する事業

##### (1) 多言語による福島現状の発信事業

震災復興に向けた取組や県民の声などの本県の現状を、6つの言語（日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語）でWEB発行し、広く世界に発信した。また、3つの言語（日本語、英語、中国語）でニューズレター（紙媒体）を発行し、県内外の関係機関（者）に情報を発信した。

##### ア 多言語による情報発信《再掲》

国内外への本県の現状の正確な発信及び外国出身県民の本県での暮らしのサポートのため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの3つの媒体を活用し、地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：47 件(前年度同期 87 件)
- 多言語発信回数：159 回（前年度同期 371 回）
- 言語別内訳

言語名	中国語	英語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	合計 (回)
件数	43	32	29	27	28	159

### イ「Fukushima Now」の発行

これまでの震災復興に向けた取組や本県に暮らす外国出身県民の声などの本県の現状を掲載した拡大版のニューズレターを発行した。

- 発行月：8月
- 発行部数：日本語(1,000部)、中国語(1,000部)、英語(1,000部)
- 仕様：A4判両面フルカラー
- 内容：本県の風景写真、本県に暮らす外国出身者からのコメント等
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、民間団体等

### (2) 外国出身県民とともに創る「ふくしまの『今』」発信事業

外国出身県民を対象に「ふくしまの『今』」を伝えるフォトコンテストを開催し、作品を募集した。

- 募集期間：8月下旬～9月19日(水)
- 応募件数：181点(21か国、不明13点)

## 2 海外からの視察に対応する事業

### (1) 海外からの視察コーディネート事業

国内外の多様な主体が主催する海外からの本県の視察交流について、コーディネートを行うための情報収集を行った。

## その他

### 1 関係機関への講師や委員等の派遣

関係機関が主催する事業に対し、講師や委員等として当協会職員を派遣した。

- 件数：6件